

科学技術関係大臣会合等について

平成 18 年 9 月 11 日

内閣府

9 月 11 日、28 カ国の科学技術関係大臣等を招いて、「第 3 回科学技術関係大臣会合」を開催した。また、10 日には、日米の産官学のトップを招いて「イノベーションに関する日米ハイレベル会合」を開催した。これらの会合は「第 3 回 S T S フォーラム」と同時期に開催したものであり、すべて京都国際会館で開催された。

1. 科学技術関係大臣会合

9 月 11 日に開催した、第 3 回科学技術関係大臣会合には、過去最大の 28 カ国から参加を得た。同会合では各国の科学技術政策や、今後重視すべき分野等について意見交換が行われた（参加者は別紙 1）。

各国からの発言のポイントは以下のとおり。

- (1) 先進国、途上国を問わず、科学技術振興には高いプライオリティが与えられている。
- (2) 科学技術振興においては、教育が重要な役割を果たすが、その中でも小中学校からの理数教育が重要である。
- (3) 途上国・移行国においては頭脳の確保が重要であるが、頭脳流出が深刻な課題となっている。特に、地域紛争・内戦などの安全保障上のリスクは、深刻な頭脳流出を引き起こしている。
- (4) 途上国の科学技術支援における日本の役割を高く評価する。今後とも一層の協力を期待する。
- (5) 経済協力の中心もインフラから知的インフラに移すべきである。

また、松田大臣が提案した、国際共同研究と人材交流促進のため情報を共有する「オープン・アクセス・データベース」構築への多くの支持が得られた。

2. イノベーションに関する日米ハイレベル会合

9 月 10 日、イノベーションに関する日米ハイレベル会合を開催した（本会合は、去る 5 月に開催された第 10 回科学技術に関する日米高級合同委員会において合意されたもの）（参加者は別紙 2）。

会合においては、基礎研究・小中学校からの理数教育の重要性、イノベーションの障害となるような規制を改革する必要性、産学官の国境を越えてのコミュニケーションを促進することの重要性等について、参加者の多くから発言があった。

また、松田大臣は、会合の最後に以下の三つの提案を行い、今後詳細について関係者と協議することとなった。

本日の会議は有意義であり、今後ともこのような会議を継続すること。

インターネットを用いて若い人向けの科学技術理解増進のための科学教材作りに日米共同で取り組むこと。

インターネットを用い、科学技術に関するニーズとシーズをマッチングするオープンアクセスのデータベースの構築を検討すること。

3. 第3回STSフォーラム

9月10日から12日にかけて、70の国と地域から600人を超える科学者、経済人、政治家等が参加し、第3回「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）」が開催されている。全体テーマは「科学技術の光と影」である。開会式には官房長官が総理の代理として出席し、スピーチを行った。松田大臣は公式夕食会において最新の日本の科学技術政策を紹介するスピーチを行った。

(別紙1)

科学技術関係大臣会合出席者

| | 氏名 | 肩書 | 国籍 |
|----|--------------------------|---------------------------------|----------|
| 1 | アンドリュウ・セシンニューイ | 研究科学技術省副官房長 | ボツワナ |
| 2 | マリック・トラオレ | 中高等教育科学研究大臣技術顧問 | ブルキナファソ |
| 3 | アーサー・カーティ | 政府科学顧問 | カナダ |
| 4 | ドラガン・プリモラツ | 科学・教育・スポーツ大臣 | クロアチア |
| 5 | ハニー・ヘラル | 高等教育・科学研究大臣 | エジプト |
| 6 | マリア・デル・カルメン・アセニャ・デ・フェンテス | 教育大臣 | グアテマラ |
| 7 | イドワン・スハルディ | 科学技術応用普及担当国務副大臣 | インドネシア |
| 8 | ガーニム・アルワン・アル・ジュマイリー | 駐日イラク大使 | イラク |
| 9 | 松田 岩夫 | 科学技術政策担当大臣 | 日本 |
| 10 | クリスプス・キアンバ | 科学技術省次官 | ケニア |
| 11 | イスマイル・アル・サッティ | 副首相兼内閣総務担当国務大臣 | クウェート |
| 12 | マトーク・モハメッド・マトーク | 労働・訓練・雇用担当全国人民委員会書記(労働・訓練・雇用大臣) | リビア |
| 13 | ローマ・ザカイティース | 教育科学大臣 | リトアニア |
| 14 | ジャマルディン・ジャリス | 科学技術革新大臣 | マレーシア |
| 15 | ヘレン・アンダーソン | 研究科学技術省事務次官 | ニュージーランド |
| 16 | ローヤー・アル・ブサイディ | 高等教育大臣 | オマーン |
| 17 | アタ・ラーマン | 首相科学技術顧問、高等教育委員長 | パキスタン |
| 18 | ミカエル・セウエルンスキ | 科学・高等教育大臣 | ポーランド |
| 19 | トマータ・アラパティ・トマータ | 教育大臣 | サモア |
| 20 | アレクサンドル・ポポビッチ | 科学環境保護大臣 | セルビア |
| 22 | フィリップ・ヨー | 科学技術開発庁長官 | シンガポール |
| 23 | エウゲネ・ングコボ | 南アフリカ科学技術委員会委員長 | 南アフリカ |
| 24 | ティッサ・ヴィタラナ | 科学技術大臣 | スリランカ |
| 25 | アブドゥルラーマン・サイド | 科学技術大臣 | スーダン |
| 26 | ブラヴィット・ラッタナピアン | 科学技術大臣 | タイ |
| 27 | タエブ・カマリ | 技術高等教育副学長 | U.A.E. |
| 28 | ジョン・マーバーガー | 大統領科学補佐官兼科学技術政策局長 | 米国 |
| 29 | レ・ティエン | 科学技術副大臣 | ベトナム |

(別紙2)

イノベーションに関する日米ハイレベル会合出席者

| 日本側 | 米国側 |
|------------------|-------------------------------|
| 御手洗富士夫 日本経団連会長 | ヘンリー・マッキンネル ファイザー株式会社社長 |
| 立石義雄 オムロン会長 | ウィリアム・ライリー デュポン社取締役 |
| 相澤益男 東工大学長 | ヴィントン・サーフ グーグル社インターネット首席伝道師 |
| 小宮山宏 東大総長 | ギルバート・オメン 全米科学振興協会(AAAS)会長 |
| 安西祐一郎 慶應義塾長 | エリス・ルービンシュタイン ニューヨーク科学アカデミー会長 |
| 白井克彦 早稲田大学総長 | フランス・コルドヴァ カリフォルニア大学リバーサイド校学長 |
| 松田岩夫 科学技術政策担当大臣 | ジョン・マーバーガー 大統領補佐官(科学技術) |
| 薬師寺泰蔵 総合科学技術会議議員 | ヘイリー・バーバー ミシシッピ州知事 |
| 黒田玲子 総合科学技術会議議員 | ジョージ・アトキンソン 国務省国務長官付科学技術顧問 |
| 吉川弘之 産総研理事長 | サレイ・シュラー 国立科学資源センター専務理事 |
| 沖村憲樹 JST理事長 | |